

大谷大学大学院 修士課程の教育方針

【教育目標（人物養成上の目的）】

修士課程は、専攻学問分野の高度な専門知識と研究能力、その学修過程で身につけた視野や能力をもって、現代社会を主体的に生き、社会や文化の発展に貢献することのできる人物を養成する。

具体的には以下のような人物の養成である。

- (1) 高度な専門的知識と研究能力を備えた創造性豊かな研究者を目指す人物の養成
- (2) 高度な専門的知識・能力を持つ職業人の養成
- (3) 知識基盤社会を協調的に支えながら、人と人との関係を再創造していこうとする高度で知的な教養人の養成

【学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー DP）】

大学院文学研究科では、修士課程修了時に学生が身につけるべき下記の4つの能力（教育研究上の目的）を定め、これらの能力を身につけることを到達目標とするカリキュラムを編成する。本学は、所定の期間在学して所定単位を修得し、修士論文の審査及び最終試験に合格することをもって、教育目標を達成したものとみなし、修士の学位を授与する。

<修了時に身につけておくべき能力（教育研究上の目的）>

- DP1 専攻学問分野と関連分野に関する、高度な専門知識を有する。（専門知識）
- DP2 専攻学問分野のなかから自らの学問的問題を発見し、計画的、継続的、系統的に探究できる。（問題発見力／探究力）
- DP3 専攻学問分野の基本文献と関連文献を正確に読み、理解することができる。自らの考えを論理的で説得力のある表現で展開できる。（読解力／表現力）
- DP4 人間や社会の諸問題に関心をもち、他の人々と共に考え、自らの視野を広げる意欲をもって、学際的な交流をおこなうことができる。（学際的視野）

【教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー CP）】

大学院文学研究科修士課程では、学位授与の方針に定められた4つの能力が学生の身につくよう、授業科目を開設するとともに修士論文の作成等に対する研究指導計画を策定し、体系的に教育課程を編成する。開講科目のねらい、授業形態、教育方法は次のとおりとする。

1. 真宗学専攻・仏教学専攻・哲学専攻・仏教文化専攻・国際文化専攻

- CP1 専攻学問分野の研究に必要な専門知識（DP1）、問題発見力／探究力（DP2）、読解力／表現力（DP3）を総合的に高め、修士論文に結実させるべく、必修の専攻科目を開講する。専攻科目は「特殊研究（演習）」と「特殊研究（論文指導）」で構成する。
- CP2 学際的視野（DP4）を広げるべく、必修の基礎科目を開講する。基礎科目は「仏教の視点」「専攻交流演習」で構成する。

CP3 学生の多様な関心に応え、また、各専攻の特定学問分野の探究に必要な能力を高めるべく、選択科目を開講する。選択科目は「語学文献研究」などで構成する。

「語学文献研究（英語・ドイツ語・フランス語・中国語）」はとくに読解力／表現（DP3）を高めるべく開講する。

そのほか、学外での幅広い交流の中で、専門知識（DP1）を深め、学際的視野（DP4）を広げることができるよう、京都・宗教系大学院連合単位互換制度下で開講される他大学院の科目を、選択科目の単位として認定する。

【教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー CP）】

大学院文学研究科修士課程（真宗学専攻・仏教学専攻・哲学専攻・仏教文化専攻・国際文化専攻）では、学位授与の方針に定められた4つの能力が学生の身につくよう、3つの科目群（基礎科目、専攻科目、選択科目）を基盤とした教育課程を開設するとともに修士論文の作成等に対する研究指導計画を策定し、体系的に教育課程を編成する。以下では、まず各科目（群）のねらい、授業形態、教育方法を説明し、次いでディプロマ・ポリシーとの関連を◎と○で示す（◎：特に重点を置いている、○：重点を置いている）。

基礎科目

人間や社会の諸問題への関心の喚起と学際的な交流を目的とする科目を、各専攻共通の基礎科目として開講する。基礎科目は、本学大学院の理念であるブツダと親鸞の基本思想をとおして人間について考える必須科目「仏教の視点」、他専攻の学生との学びをとおして学際的視野を広げる必須科目「専攻交流演習」で構成する。

専攻科目

各専攻研究に必要な能力を高め、修士論文に結実させる科目を専攻科目として開講する。専攻科目は、専攻科目Aとして、専門知識・問題発見力・探究力・読解力・表現力を総合的に育成する必須科目「特殊研究（演習）」、専攻科目Bとして、研究論文作成のための基礎的な能力を育成する必須科目「特殊研究（論文指導）」、専攻科目Cとして、さまざまな専門文献についての知識や研究方法を学ぶために選択可能な専攻科目で構成する。

選択科目

学生の多様な関心に応え、各専攻の特定学問分野の探究に必要な能力を高めるために「語学文献研究」等を選択科目として開講し、京都・宗教系大学院連合単位互換制度下で開講される科目や毎年夏期に開催される安居を選択科目の単位として認定する。

修士課程（真宗学専攻・仏教学専攻・哲学専攻・仏教文化専攻・国際文化専攻）開講科目

科目(群)		履修 単位	学年 配当	(DP1)	(DP2)	(DP3)	(DP4)	各科目(群)のねらい
基礎 科目	「仏教の視点」	2	1				◎	仏教思想を通じて、人間に関する考察を進め、他者と共に生きる社会への問題意識を養う。
	「専攻交流演習」	2	1		○		◎	他専攻の学生との学びを通じて、学際的視野を広げ、自らの専攻の学問的意義をより明確に理解する。

専攻科目	専攻科目A	8	1~2	◎	◎	◎	2年間の段階的な学びにより、専門知識、問題発見力、探究力、読解力、表現力を修得し、修士論文作成に必要な能力を培う。（「特殊研究(演習)」）
	専攻科目B	4	1	○	○	◎	各専攻で学ぶにあたり必要とされる、基礎的な論文作成能力を育成する。（「特殊研究(論文指導)」）
	専攻科目C	4以上	1~2	○	○	○	自専攻と他専攻のさまざまな専門的文献等についての知識や研究方法を身につける。（「特殊研究(演習)」、「特殊研究(論文指導)」以外の専攻科目および他専攻の専攻科目）
	選択科目	0以上	1~2	○	○	○	学生の多様な関心に応え、各専攻の特定学問分野の探究に必要な能力を高める。
	学位論文		2	◎	◎	◎	各専攻での専門的な学びを通じて身につけた能力を駆使し、粘り強く研究を遂行する。（修士論文）

II. 教育・心理学専攻

- CP1 専攻学問分野の研究を始めるのに必要な専門知識と読解力の基礎を固めるべく、必修の基礎科目「教育学総論」「心理学総論」を開講する。さらに、専攻学問分野の研究に必要な専門知識（DP1）、問題発見力／探究力（DP2）、読解力／表現力（DP3）を総合的に高めるため、必修の専攻科目「教育・心理学特別研究Ⅰ・Ⅱ」を開講する。
- CP2 人間や社会の諸問題への視野（DP4）を広げるべく、必修の基礎科目「仏教の視点」を開講する。
- CP3 学生の多様な関心に応えるべく、選択科目を開講する。高度な専門知識（DP1）・問題発見力／探究力（DP2）・読解力／表現力（DP3）・学際的視野（DP4）を総合的に高めるため、選択の専攻科目として教育学領域・心理学領域・教科教育学領域にそれぞれ三種類の「特論」「演習」を開講し、その履修単位を選択科目のそれとして認定する。
「語学文献研究（英語・ドイツ語・フランス語・中国語）」はとくに読解力／表現力（DP3）を高めるべく開講する。
そのほか、学外での幅広い交流の中で、専門知識（DP1）を深め、学際的視野（DP4）を広げることができるよう、京都・宗教系大学院連合単位互換制度下で開講される他大学院の科目を、選択科目の単位として認定する。

【教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）】

大学院文学研究科修士課程（教育・心理学専攻）では、学位授与の方針に定められた4つの能力が学生の身につくよう、3つの科目群（基礎科目、専攻科目、選択科目）を基盤とした教育課程を開講するとともに修士論文の作成等に対する研究指導計画を策定し、体系的に教育課程を編成する。以下では、まず各科目（群）のねらい、授業形態、教育方法を説明し、次いでディプロマ・ポリシーとの関連を◎と○で示す（◎：特に重点を置いている、○：重点を置いている）。

基礎科目

人間や社会の諸問題への関心の喚起と、専攻研究をはじめめるために必要な基礎的能力の涵養を目的とする科目を基礎科目として開講する。基礎科目は、本学大学院の理念であるブツダと親鸞の基本思想をととして人間について考える必須科目「仏教の視点」、専攻研究をはじめめるための基礎を構築する必須科目「教育学総論」・「心理学総論」で構成する。

専攻科目

専攻研究に必要な能力を総合的に育成し、修士論文に結実させる科目「教育・心理学特別研究Ⅰ・Ⅱ」を、必須科目として開講する。

選択科目

学生の多様な関心に応え、各専攻の特定学問分野の探究に必要な能力を高めるために選択科目を開講する。選択科目は、教育学領域・心理学領域・教科教育学領域それぞれにおける「特論」と「演習」、読解力・表現力の向上を目的とする「語学文献研究」等から構成される。また、京都・宗教系大学院連合単位互換制度下で開講される科目や毎年夏期に開催される安居を選択科目の単位として認定する。

修士課程（教育・心理学専攻）開講科目

科目(群)		履修 単位	学年 配当	(DP1)	(DP2)	(DP3)	(DP4)	各科目(群)のねらい
基礎 科目	「仏教の視点」	2	1				◎	仏教思想を通じて、人間に関する考察を進め、他者と共に生きる社会への問題意識を養う。
	「教育学総論」・ 「心理学総論」	4	1	◎				専攻研究をはじめめるために必要な教育学と心理学に関する基礎を構築する。
専攻 科目	「教育・心理学特 別研究Ⅰ・Ⅱ」	8	1～2	◎	◎	◎		2年間の段階的な学びにより、専門知識、問題発見力、探究力、読解力、表現力を修得し、修士論文作成に必要な能力を培う。
選択科目		16	1～2	○	○	○	○	学生の多様な関心に応え、各専攻の特定学問分野の探究に必要な能力を高める。
学位論文			2	◎	◎	◎	◎	各専攻での専門的な学びを通じて身につけた能力を駆使し、粘り強く研究を遂行する。(修士論文)

大谷大学大学院 博士後期課程の教育方針

【教育目標（人物養成上の目的）】

博士後期課程は、専攻学問分野の優れて高度な専門知識と研究能力を有し、人間や社会への広い視野をも備えて、自立した研究活動をおこない、社会や文化の発展に貢献することのできる人物を養成する。

【学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー DP）】

大学院文学研究科では、博士後期課程修了時に学生が身につけるべき下記の4つの能力（教育研究上の目的）を定め、これらの能力を身につけることを到達目標とするカリキュラムを編成する。本学は、所定の期間在学して所定単位を修得し、博士論文の審査及び最終試験に合格することをもって、教育目標を達成したものとみなし、博士の学位を授与する。

<修了時に身につけておくべき能力（教育研究上の目的）>

- DP1 専攻学問分野と関連分野に関する、優れて高度な専門知識を有する。（専門知識）
- DP2 専攻学問分野の重要な学問的問題を見だし、自らの確かな方法をもって探究することができる。（問題発見力／探究力）
- DP3 研究に必要な複数の言語について高度な読解力を有する。研究成果を広く学界に発表することができる。（読解力／表現力）
- DP4 人間や社会の諸問題について広い視野と学際的知識を有する。（学際的視野）

【教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー CP）】

大学院文学研究科博士後期課程では、学位授与の方針に定められた4つの能力が学生の身につくよう、授業科目を開設するとともに博士論文の作成等に対する研究指導計画を策定し、体系的に教育課程を編成する。開講科目のねらい、授業形態、教育方法は次のとおりとする。

- CP1 専門知識（DP1）、問題発見力／探究力（DP2）、読解力／表現力（DP3）を総合的に高め、博士論文に結実させるべく、必修の専攻科目「特殊研究（演習）」を開講する。
- CP2 人間や社会の諸問題についての視野（DP4）を広げるべく、必修の基礎科目「仏教の視点」を開講する。
- CP3 各自の関心と必要に応じて、専門知識（DP1）、問題発見力／探究力（DP2）、読解力／表現力（DP3）を高め、学際的視野（DP4）を広げるべく、選択科目を開講する。また、専攻科目中の「特殊研究Ⅰ（講義）」、「特殊研究Ⅱ（文献研究）」の履修単位を選択科目のそれとして認定する。

「特殊研究Ⅰ（講義）」のなかに高度な専門知識（DP1）を深めるものと他専攻生の学際的視野（DP4）を涵養するものを開講する。

「特殊研究Ⅱ（文献研究）」は読解力／表現力（DP3）を高め、専門知識（DP1）を深めるものが中心になるが、問題発見力／探究力（DP2）や学際的視野（DP4）を涵養するものも開講する。

「語学文献研究（英語・ドイツ語・フランス語・中国語）」はとくに読解力／表現力（DP3）を高めるべく開講する。

そのほか、学外での幅広い交流の中で、専門知識（DP1）を深め、学際的視野（DP4）を広げることができるよう、京都・宗教系大学院連合単位互換制度下で開講される他大学院の科目を、選択科目の単位として認定する。

【教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）】

大学院文学研究科博士後期課程では、学位授与の方針に定められた4つの能力が学生の身につくよう、3つの科目群（基礎科目、専攻科目、選択科目）を基盤とした教育課程を開設するとともに博士論文の作成等に対する研究指導計画を策定し、体系的に教育課程を編成する。以下では、まず各科目群のねらいを説明し、次いでディプロマ・ポリシーとの関連を◎と○で示す（◎：特に重点を置いている、○：重点を置いている）。

基礎科目

人間や社会の諸問題についての視野を広げることを目的とする各専攻共通の基礎科目として、本学大学院の理念であるブッダと親鸞の基本思想をとおして人間について考える必須科目「仏教の視点」を開講する。

専攻科目

各専攻研究に必要な能力を高め、博士論文に結実させる科目を専攻科目として開講する。専攻科目は、専攻科目Aとして、専門知識・問題発見力・探究力・読解力・表現力を総合的に育成する必須科目「特殊研究（演習）」、専攻科目Bとして、さまざまな専門文献についての知識や研究方法を学ぶために選択可能な専攻科目で構成する。

選択科目

学生の多様な関心に応え、各専攻の特定学問分野の探究に必要な能力を高めるための科目を選択科目として開講する。選択科目は、選択科目Aとして、博士後期課程修了のために必要な外国語学力認定に対応する「語学文献研究」、選択科目Bとして、学生の関心に応じて選択できる諸科目で構成する。京都・宗教系大学院連合単位互換制度下で開講される科目や毎年夏期に開催される安居を選択科目Bの単位として認定する。

博士後期課程開講科目

科目(群)		履修単位	学年配当	(DP1)	(DP2)	(DP3)	(DP4)	各科目(群)のねらい
基礎科目	「仏教の視点」	2	1				◎	仏教思想を通じて、人間に関する考察を進め、他者と共に生きる社会への問題意識を養う。
専攻科目	専攻科目A	12	1～3	◎	◎	◎		3年間の段階的な学びにより、専門知識、問題発見力、探究力、読解力、表現力を修得し、博士論文作成に必要な能力を培う。（「特殊研究（演習）」）
	専攻科目B	0以上	1～3	○	○	○		自専攻と他専攻のさまざまな専門的文献等についての知識や研究方法を身につける。（「特殊研究（演習）」以外の専攻科目および他専攻の専攻科目）
選択科目	選択科目A	4	1～3				◎	英語、独語、仏語、中国語の読解力・表現力を高める。（「語学文献研究（英語）」等。）
	選択科目B	0以上	1～3	○	○	○	○	学生の多様な関心に応え、各専攻の特定学問分野の探究に必要な能力を高める。
学位論文			3	◎	◎	◎	◎	各専攻での専門的な学びを通じて身につけた能力を総合的に駆使し、粘り強く研究を遂行する。（博士論文）